



次回のこの欄に登場するのは、あなたかも？
身近なニュース、まちの話題などをお知らせください
☎情報政策課広報係 ☎22-1411 (内線431)

「幸田真音さんの話に勇気づけられました」

木永裕子さん(清崎町)・高畑郁子さん(城町二丁目)

2月8日、彦根城博物館で行われた幸田真音さんの講演会をお聞きしました。

幸田さんは八日市出身で、経済を題材にした小説で有名ですが、現在、湖東焼をテーマに、彦根を舞台にした歴史小説を新聞に連載されています。初めての新聞小説で書いたことのない歴史物を選ばれたのは、湖東焼や近江商人へのなみなみならぬ熱意があったことなのでしょう。「湖東焼、近江商人は滋賀県の宝」と何度も繰り返して言われたのが印象的です。

湖東焼が始まった時代は、磁器の生産が九州から全国に広がるころだったそうです。彦根で古着を商っていた絹屋半兵衛という人が湖東焼を始めたのですが、新しいビジネスをいち早く発見し、果敢に挑戦した、

優秀な起業家だったとのこと。その後、彦根藩は湖東焼を焼く窯を召し上げて、直営にしています。彦根藩は、外資系の企業のような、当時とすれば先進的な藩経営が行われていたということでした。私たちは経済に関心があって、幸田さんの経済小説を何冊か読んでいます。経済の視点から、湖東焼の別の側面を見る思いで、興味深く聞きました。

湖東焼は「幻の名窯」と呼ばれ、その魅力や価値を知る人は多くありません。彦根や滋賀には、そうした知られざる価値あるものがたくさんあります。幸田さんは、「外国人の方が日本のよいところをよく知っている。みんなが自分たちの歴史や文化に自信を持ち、元気をだしていきましょ」と勇気づけてくれました。



▲熱心にお話を聞く子どもたち



▲動物やまんがのキャラクターなどを描きました



▼児玉さん

「自然に親しむ心をはぐくみたい」

めぐみ保育園(高宮町)園長 児玉恵子さん

高宮には多くの自然が残されていますが、それでも、今の子どもたちも、自然の中で遊ぶよりも、家の中でテレビゲームなどをする人が多いようです。そんな子どもたちが、自然に親しむきっかけになればと、2月6日に、環境啓発講座『山・森・木のお話し』を開催しました。

年長組の34人に、滋賀県湖東地域振興局森林整備課の方3人が、「いつぼんの木」というお話をしてくださいました。家族みんなに愛された一本の大木が、惜しまれながら切り倒された後、木目を生かした机やいすなどに生まれ変わった、とい

う内容です。大きな木やそこに住む生き物たち、美しい年輪の写真がスライドで映し出されると、子どもたちは目を輝かせて見入っていました。お話を聞いた後は、ヒノキの板に自分の名前と思いの絵や模様を描いて、ネームプレートを作りました。子どもたちは、木のおいや肌触りに親しみを持ってくれたようでした。

この日から、古いスチールのいすに代えて、県内産のヒノキの間伐材のいすを年長組の子どもたちの部屋に備えました。木を通して、山や川を愛し、守る気持ちを育てていってほしいと願っています。

◀木永さん(左)と高畑さん



▲「幸田さんの柔らかい語り口に、思わず引き込まれてしまいました」